

平成22年4月1日

## 平成22年度 学校経営方針

横須賀市立粟田小学校

校長 小川 義一

### 1、学校経営の基本理念

子どもたちは、これからの変化の激しい社会においても、心豊かでたくましく生き、民主的・文化的な国家を確立し、国際的な視野をもって世界平和と人類の福祉に貢献する担い手となる人材です。学校教育は、その時代を担い、生き生きと力強く活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成が求められています。

本校は、日本国憲法・教育基本法及び児童憲章の精神を遵守し、神奈川県や横須賀市の学校教育の指導方針を基盤にすえ、新たな時代の要請に応えるために、すべての教職員の創造性、自発性、英知を結集して、粟田小学校に在席する子どもたちに21世紀をたくましく生きる力を身につけさせ、保護者・地域の方々から信頼される学校づくりを推進します。

### 2、学校教育目標

『心の豊かな子』の育成

学校教育目標達成にむけて

- ① 全ての教育活動は、本校学校教育目標達成のための活動です。
- ② 学校教育目標の設定は、学校が保護者や地域に対して示した公約です。
- ③ 学年・学級は、学校教育目標達成の具体的な場です。それぞれの発達段階に即して目標の具体化にあたり、一人一人の子どもを高めるよう、学年・学級目標を設定します。
- ④ 本校全ての教育活動のP（計画）→D（実践）→C（評価）は学校教育目標への過程であることを踏まえ、実践を積み上げていきます。
- ⑤ 指導と評価の一体化を推進していきます。

### 3、めざす子ども像とその具体像

(1) 命や人権を大切にし、広い心と、共に学び支えあう子

#### ① 明るい子

- ・元気にあいさつをする。
- ・自分の考えや思いをいろいろなかたちで表現する。

#### ② 思いやりのある子

- ・人間としての優しさを持つ。
- ・自然を愛し、生命を大切にする。
- ・認め合い、協力し合う。

(2) 進んで問題に取り組み、考えを深め合う子

#### ③ 深く考える子

- ・学ぶことに喜びを持つ。

- ・ 基礎的・基本的な知識や技能を習得する。
- ・ 課題意識を持ち、自ら調べ学習する。
- ・ 正しく判断し、自分で決める。

(3) 健康でたくましく、進んで働く子

④ たくましい子

- ・ 友だちを元気に遊ぶ。
- ・ 健康で丈夫なからだをつくる。
- ・ ねばり強く最後までがんばる。

⑤ 進んで取り組む子

- ・ 自ら進んで実行する。
- ・ 責任を持つ。

#### 4、めざす学校像

教育目標の具現化に向けて次のような学校像を設定する。

(1) 楽しい学校の創造

子どもたちにとって楽しい学校とは

- ① 学習内容がわかり、できなかったことができるようになる授業
- ② いじめ、差別、暴力(言葉の暴力も)がなく、仲のよい友だちのいる学校
- ③ 自分を認め励まし、ほめる、しかる、支えてくれる信頼できる先生
- ④ 仲間と力を合わせ、助け合いながら全力で取り組める学校行事
- ⑤ 安全で清潔で美しく安心できる環境

等が整った学校である。

(2) 信頼される学校の創造

保護者・地域の方々が期待する学校とは

- ① 基礎的・基本的学習内容を確実に身につけさせ、健全な心身を育み、子どもの成長の様子が実感できる
- ② いじめ、差別、暴力がなく、子どもたちが生き生きと活動していることがわかる
- ③ 担任や学校に気軽に相談しやすい環境があり、どの教職員でも適切な受けとめや助言ができるような内にも外にも開かれている
- ④ 安全で、清潔で、美しく、安心して預けられる教育環境が整っている

等の学校である。

(3) 魅力ある学校の創造

本校の教職員にとって魅力ある学校とは

- ① 自分自身の特性や専門性が発揮でき、持ち味を生かし、職責がしっかり果たせ、授業力を向上させるための質の高い研修等から自己実現できる
- ② 教職員の人間関係が温かく、自他の短所を全員で補い合い、支えあっていける組織力がある

- ③偏見や差別がなく、一人ひとりの人権が守られる温かい
  - ④子ども、保護者、地域の方々との信頼関係が保たれ、協力し合える
  - ⑤事故がなく、安全で、清潔で、美しい環境
- であることを自覚し、一人ひとりが誠実に努力する。

## 5、本年度の重点目標と取り組み

(1) 学力向上推進委員会において効果的な学習指導法や授業のあり方を研究し、授業の質の向上に努める。

- ①学力向上推進委員会を活動をとおして、粟田小学学力向上プランの策定と推進を図る。
- ②校内研究では、国語の授業研究を中心に研究を進め、「学び合い」「深め合う」関係を実感できる教育活動を進める。外部講師を招き、授業力を高める。
- ③主体的な学びをめざした、総合的な学習の時間の充実を図る。
- ④ICTを活用した授業の取り組みや学校図書館を活用した授業の取り組みの充実をめざす。
- ⑤ 評価規準・基準を明確にし、指導計画や指導方法の工夫・改善に努める。

(2) さまざまな人との関わりを通して、心豊かな子ども育成を図る活動を進める。

- ①1年生から6年生までの異年齢構成の小集団のたてわり活動を通し、縦のつながりを大切にしながら、思いやりや責任感、協力・助け合いの心を育てる。

(なかよし集会、なかよし清掃等)

- ② 粟田デイサービスとの交流や体験活動・地域の方との交流を通して、いろいろな立場の人を思いやる心や協調性を育む。
- ③ いじめや差別を絶対に許さない教育に努める。
- ④ 一人ひとりの教育的ニーズに応えるための支援教育を進める。
- ⑤ 日常生活の中で、あいさつの励行を進め、心の交流を一層深める。

(3) 家庭や地域との連携と地域教育力の活用を図り、開かれた学校づくりに努める。

- ①保護者との対応は誠意をもって迅速に行い、常に「子どものためにどうか」という尺度で取り組む。
- ②学校だより・学級だより、懇談会などを活用し、学校の状況を知らせ、理解を深め、学校・子ども・地域のよさを生かした教育を進める。
- ③学校評価アンケートの実施や学校評議委員会の開催等を通して、保護者や地域の意見・考えを把握し、課題を明らかにし、学校改善に生かす。
- ④学校関係者評価委員会を充実し、PDCAのサイクルに基づいた学校経営を推進する。
- ⑤地域教育力のさらなる活用のため、学校人材バンクを作成し、学校ボランティア、ゲストティーチャーなどの活用を進める。

(4) 校務分掌の機能と責任を明確にし、運営の効率化を図る。

- ①教職員一人ひとりが持つ良さと特性を生かし、組織的、一体的な教育活動を展開するように努める。
- ②校務にあたっては、自分の良さ・特性を生かし、積極的・創造的に取り組み他の分掌とも連携を

とりながら、円滑な学校運営がなされるよう努める。

③特別支援教育委員会の活動をさらに充実し、校内支援体制の整備を図るとともに、指導力を高めるため研修の実施に努める。

④学校予算の効率的な編成と意図的・計画的・組織的な執行を行う。

(5) 地域ぐるみで子どもの安全を確保し、教育環境の整備・充実を図る。

①事故防止・事故対応に全校で取り組み、対応マニュアルを整備し、訓練を実施。職員の共通理解を図る。

(避難訓練・防犯訓練・防犯教室・安全点検等)

②「ハイランド子ども見守り隊」や子ども会、保護者や地域の方々による通学路における児童の安全確保や交通指導などの協力を努める。また、校外委員を中心にして保護者や地域の方々、教職員による校内外パトロール・安全マップづくり・名札着用・声かけを実施し、安全確保の徹底に努める。